

GeoJSON 設定ガイド

目次

1	この文書について	1
2	地図データの登録について	2
3	設定ファイルの変更について	3
4	ロゴ画像ファイルの変更について	8

1 この文書について

ダッシュボードの設定について、以下の方法を説明します。

- 地図データの登録
- 設定ファイルの変更
- ロゴ画像ファイルの変更

設定を行うには、以下のアプリケーションを必要とします。

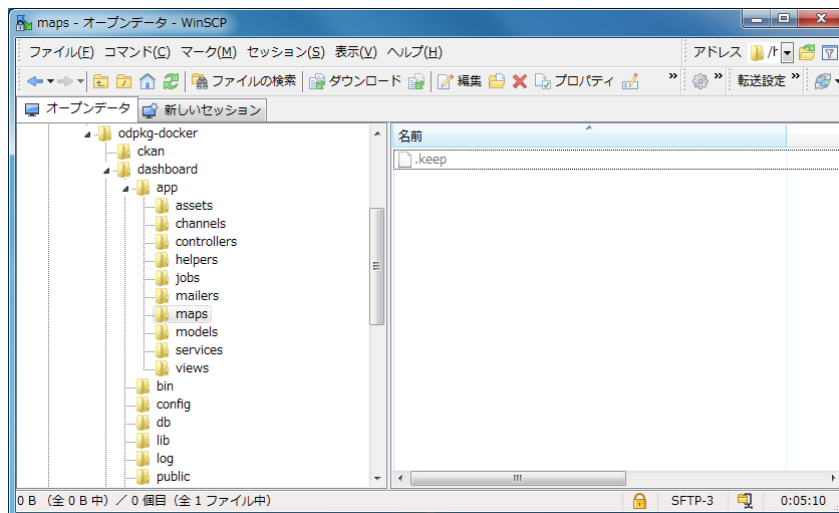
- SFTP 転送クライアント(この文書では WinSCP を使用します)
- SSH クライアント(この文書では RLogin を使用します)

2 地図データの登録について

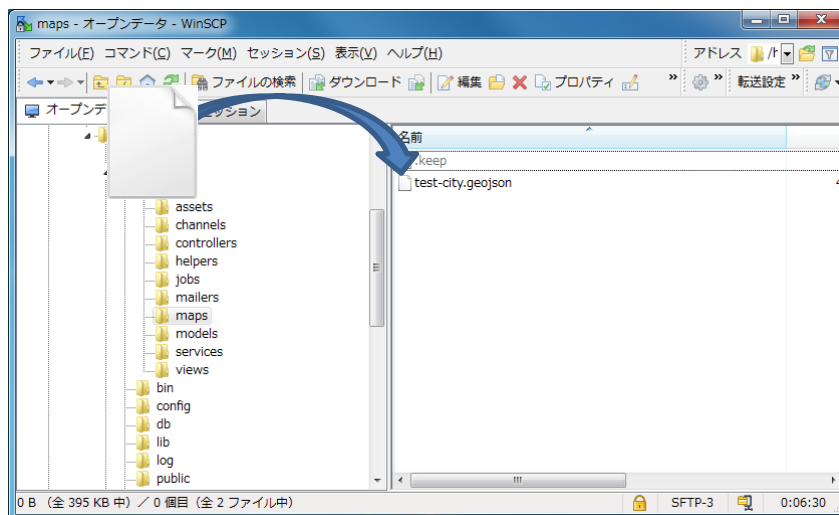
ダッシュボードに GeoJSON ファイルを登録することで、地図の塗り分けで使われる地図データを追加することができます。

GeoJSON の作成については、GeoJSON 作成ガイドをご参照ください。

GeoJSON ファイルを準備したら、WinSCP で `~/odpkg-docker/dashboard/app/maps` に移動します。



maps フォルダに GeoJSON ファイルをドラッグアンドドロップでコピーします。



3 設定ファイルの変更について

設定ファイルを変更することで、以下の設定を行うことができます。

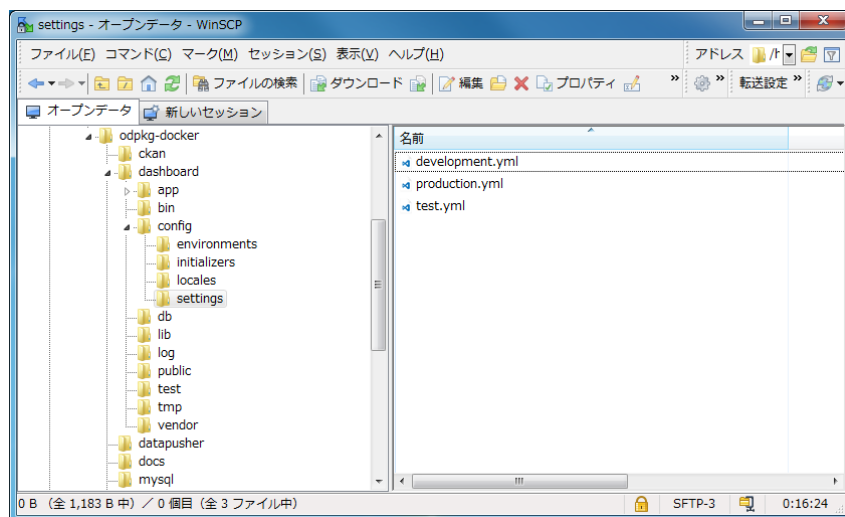
- カタログサイト(ホーム)の URL
- CKAN API の URL
- Google Analytics のトラッキング ID
- Google Maps の API キー
- 組織の設定
 - 組織名
 - 組織で使用する GeoJSON ファイル
 - 地図の初期表示時の緯度経度
 - 地図の初期表示時の地図拡大率

ダッシュボードの動作を変更するために設定ファイルを作成します。

YAML という形式を使用して記述します。

※ 設定ファイルの雛形は、~/odpkg-docker/dashboard/config/settings に production.yml というファイル名で置いています。設定を変更する場合はこのファイルをローカルに保存、修正してサーバにアップロードしてください。

WinSCP を使用した場合は、以下のように表示されます。



設定の基本形は以下になります。

```
home:
  url: [カタログサイトの URL]
ckan:
  api: [CKAN API の URL]
analytics:
  id: [Google Analytics のトラッキング ID]
maps:
  key: [Google Maps の API キー]
organizations:
  - id: [組織の ID]
    name: [組織名]
    maps:
      json: [GeoJSON ファイル名]
      lat: [初期表示時の緯度]
      lng: [初期表示時の経度]
      zoom: [初期表示時のマップ拡大率]
```

各項目について説明します。

[カタログサイトの URL]

カタログサイト(ホーム)の URL を記述します。

[CKAN API の URL]

CKAN API の URL を記述します。

通常は「[CKAN の URL]/api/3」となります。

[Google Analytics の API キー]

Google Analytics の API キーを記述します。

[Google Maps の API キー]

Google Maps の API キーを記述します。

[組織の ID]

CKAN での組織の ID を記述します。

CKAN 上での組織の URL が /organization/org1 であった場合は、「org1」部分です。

[組織名]

CKAN 上での組織名(日本語名)を記述します。

[GeoJSON ファイル名]

地図データの登録で使した GeoJSON ファイル名を記述します。

[初期表示時の緯度]

組織の初期表示時に表示する地図の緯度を記述します。

[初期表示時の経度]

組織の初期表示時に表示する地図の経度を記述します。

[初期表示時のマップ拡大率]

組織の初期表示時に表示する地図の拡大率を記述します。

数値を大きくすると拡大、小さくすると縮小となります。

通常は 12 で開始し、地図の表示具合を見ながら適宜サイズを変更してください。

実際に記述した場合のサンプルは以下になります。

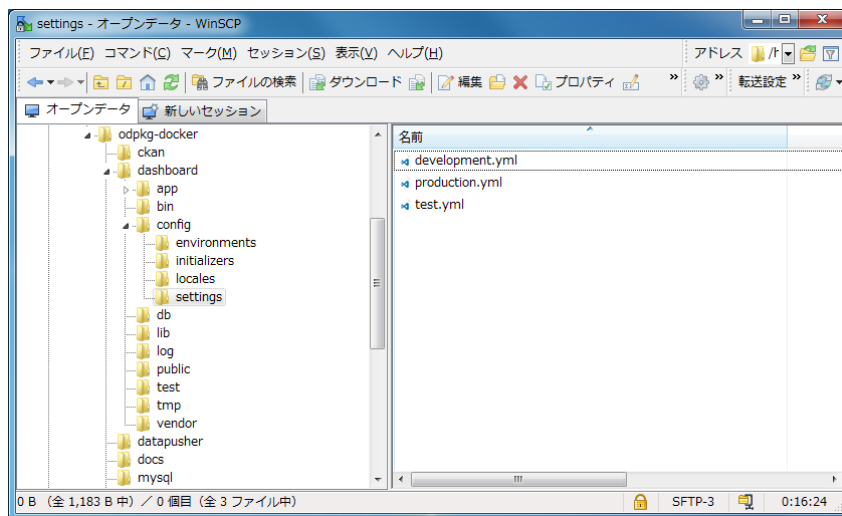
```
home:
  url: http://opendata.example.com
ckan:
  api: http://opendata.example.com/api/3
analytics:
  id: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
maps:
  key: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
organizations:
  - id: org1
    name: 組織 1
    maps:
      json: test-city.geojson
      lat: 33.596302
      lng: 130.410784
      zoom: 12
```

また、組織は複数登録することができます。

以下のような形式で、 **organizations:** に組織を複数並べることで設定します。

```
home:
  url: http://opendata.example.com
ckan:
  api: http://opendata.example.com/api/3
analytics:
  id: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
maps:
  key: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
organizations:
  - id: org1
    name: 組織 1
    maps:
      json: test-city1.geojson
      lat: 33.596302
      lng: 130.410784
      zoom: 12
  - id: org2
    name: 組織 2
    maps:
      json: test-city2.geojson
      lat: 33.596302
      lng: 130.410784
      zoom: 12
```


ファイルを作成したら、WinSCP で `~/odpkg-docker/dashboard/config/settings` に移動します。



フォルダに `production.yml` ファイルをドラッグアンドドロップで上書きコピーします。

ダッシュボードのプログラムを再起動します。

SSH を使用してサーバーにログインしたら、以下のコマンドを実行してください。

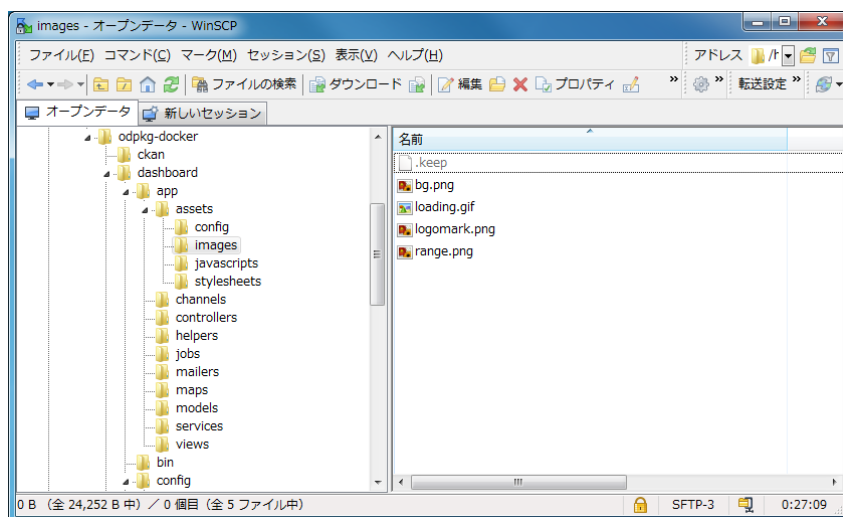
```
$ cd ~/odpkg-docker
$ docker-compose restart dashboard
```

コマンドを実行した後に、ダッシュボードの表示が変わっていることを確認してください。

4 ログ画像ファイルの変更について

ログ画像のファイルは 横 280 ピクセル×縦 50 ピクセルの PNG 画像を用意してください。
また、ファイル名は `logomark.png` とします。

ログ画像ファイルを準備したら、WinSCP で `~/odpkg-docker/dashboard/app/assets/images` に移動します。



`logomark.png` をドラッグアンドドロップで上書きコピーします。

ダッシュボードのプログラムを再起動します。

SSH を使用してサーバーにログインしたら、以下のコマンドを実行してください。

```
$ cd ~/odpkg-docker
$ docker-compose restart dashboard
```

コマンドを実行した後に、ダッシュボードの表示が変わっていることを確認してください。

ブラウザを起動して、画像が変わっていることを確認します。

※もし画像が変わっていないようであれば、ブラウザを強制リロードして再度画像を確認してください。